

DP Note サービス概要

概要

災害データを3Dマップなどに可視化し、次世代に災害の教訓などを語り継いでいくサービス

背景

1. 日本の災害の現状

日本で発生する災害は、地震、台風、津波、土砂災害、など、様々な災害が起きており【災害大国】といわれています。

2. 災害に対する人々の認識

【正常性バイアス】という言葉があります。予期せぬ出来事に対し正常心を保つための人の特性のことです。このバイアスがかかると、災害時に大丈夫と思い込み「避難行動を取らない」というリスクがあります。また、災害が起きた直後は防災に関する認知は上がりますが、時間の経過とともにその出来事のこと忘れられていき、防災は大切とわかっていても、なかなか取り組めなかったり、継続できなかったりするものが、現実だと思えます。

3. 精神的負担

メディアなどでは、過去の災害を報道するにあたり、災害の映像を直に流すことがありますが、人により、共感疲労やPTSDを発症するなど、精神的ショックを受けることもあり、そのような方々には心理面・精神面でのフォローも必要になってきます。災害の教訓を学ぶことは大切です。ただ、テレビ、新聞、ネットニュースなど、様々な媒体を通して、どのように次世代に伝えていくべきなのか？

目的

1. 可視化することで災害の教訓を学ぶ
2. 災害の映像の配信する伝え方は人により共感疲労やPTSDを伴ってしまうリスクがある

3. 災害を経験したことのない世代や将来起こりうる災害に備えるため、次世代に伝えていく必要がある

これらの問題を解決するべく、DP Noteは誕生しました。

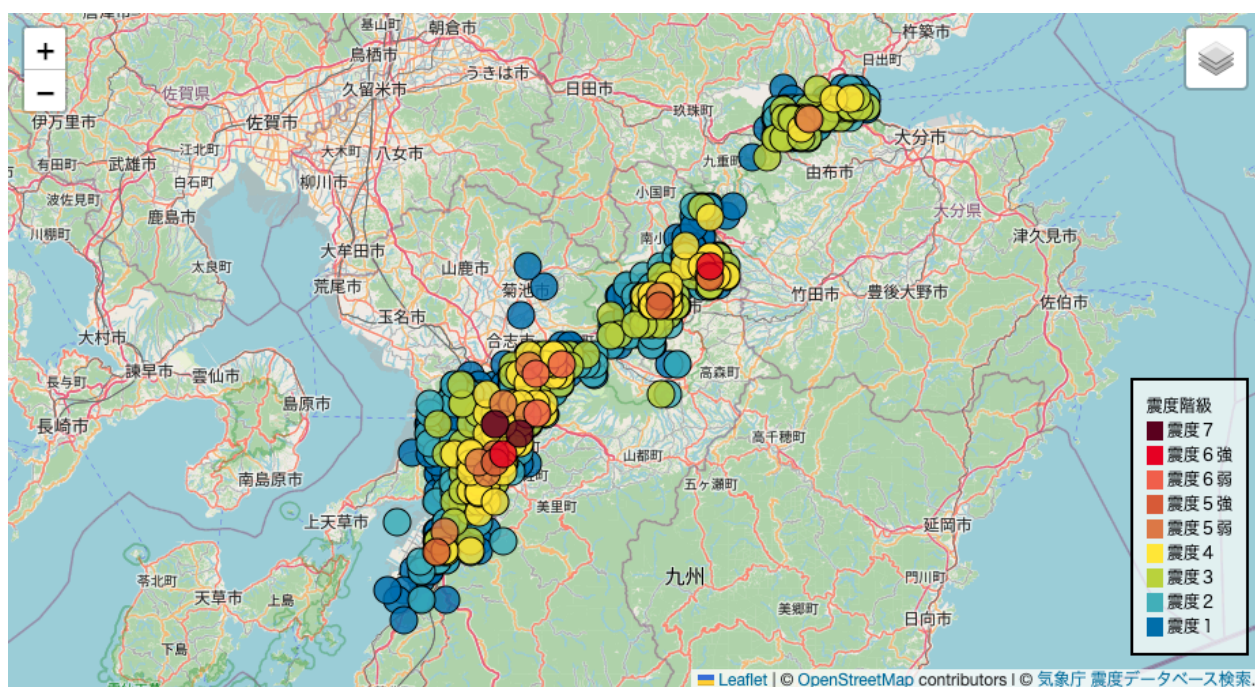
可視化した主な災害

○ 地震／熊本地震

震度階級による色分けによる震度マップとして可視化

震度7、震度6強など、強い地震の後に、震度1～4の地震が大量に発生していることがわかります(群発地震)。震度4でも、倒れかかった家屋やブロック塀は倒れる恐れがあり、近づかないという教訓が得られます。

URL: <https://dpnote.netlify.app/kumamotoearthquake/>

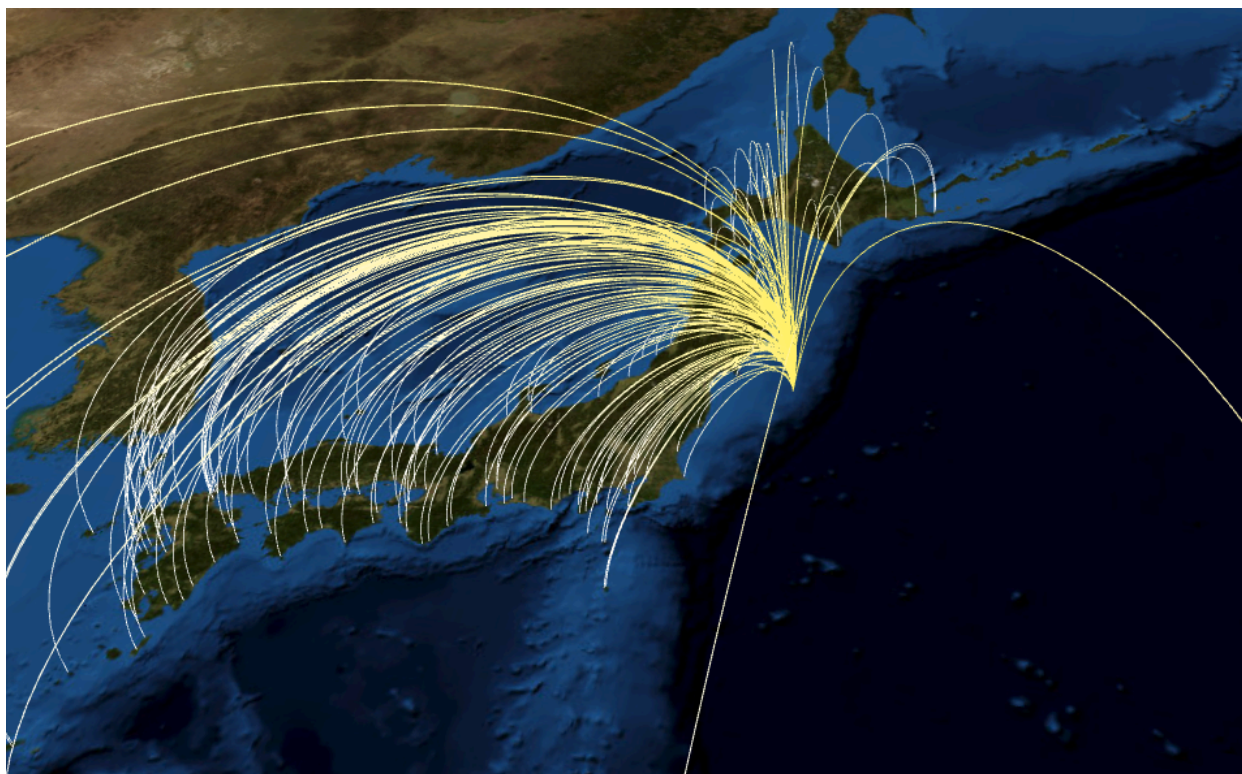


○ 津波／東日本大震災

震源地と津波観測地点の可視化

津波の広がりを可視化したものです。太平洋側だけではなく、日本海側にも津波が届いています。高いところで、26cmを観測。50cmの津波でも一般男性は立ってられないほどの強さであり、高さが低いからといって安心はできません。南海トラフ地震が起きた際も同様の現象になることが予想され、住民の適切な避難が大切です。

URL: <https://dpnote.netlify.app/higashinihonarcrotate/>

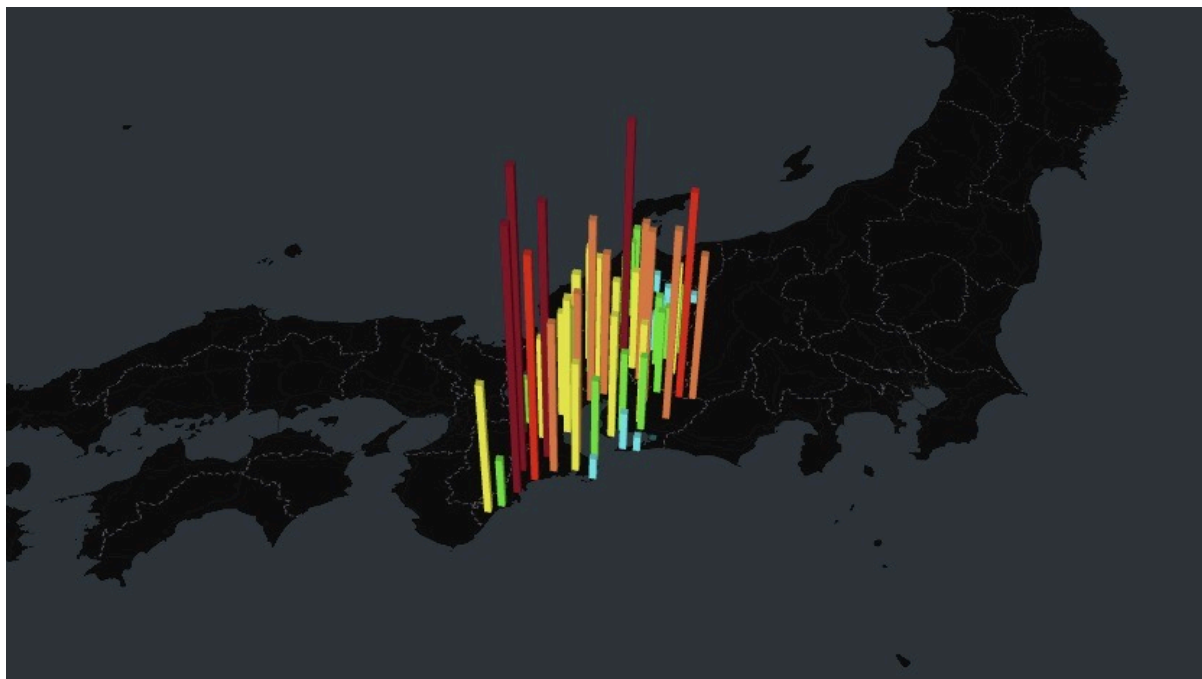


○ 豪雨／東海豪雨

総降雨量を3Dに可視化

名古屋市では、9月11日・12日の2日間で567mmという観測史上最大値を記録しました。回転機能をつけているため、東西南北、あらゆる角度から分析できます。

URL: <https://dpnote.netlify.app/h12tokai/>

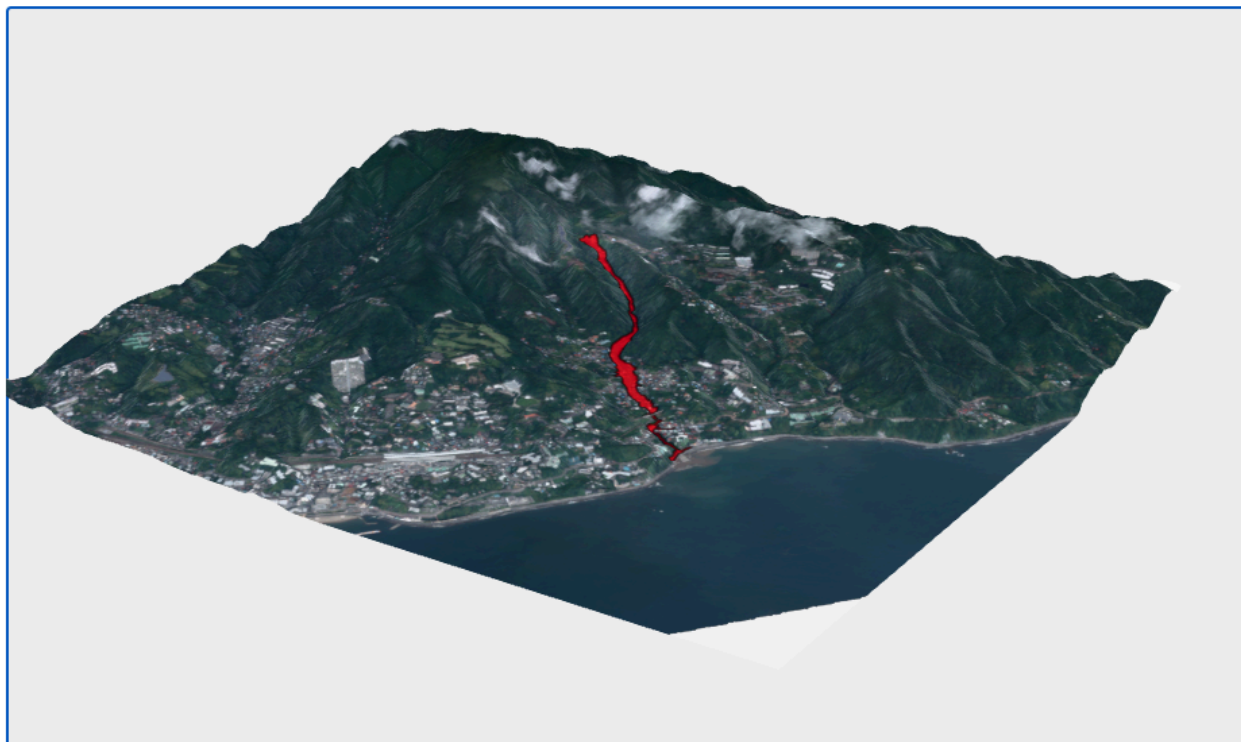


○ 土砂災害／熱海市伊豆山土砂災害

土砂災害の被害の様子を3DGLにて可視化。

山の上部斜面から下流まで、流れ込んできていることが分かります。ハザードマップの危険区域なところであり、豪雨の際には、早めの避難が肝心です。

URL: <https://dpnote.netlify.app/atami3d/>



○防災図解

防災情報を分かりやすく伝えるため、図解にて可視化

防災における人の心理バイアス

正常性バイアス

予期せぬ出来事に対し正常心を保つための人の特性。災害時に大丈夫と思い込み、避難しないというリスクがある。
「今回も大丈夫でしょ？」

同調性バイアス

異常があっても背景に埋もれてしまい、危険と認識しない心理状態。小石が落ち始めるなどの土砂災害の前兆を「見逃す」のが典型例。

正常性
バイアス

同調性
バイアス

同化性
バイアス

感情
バイアス

同調性バイアス

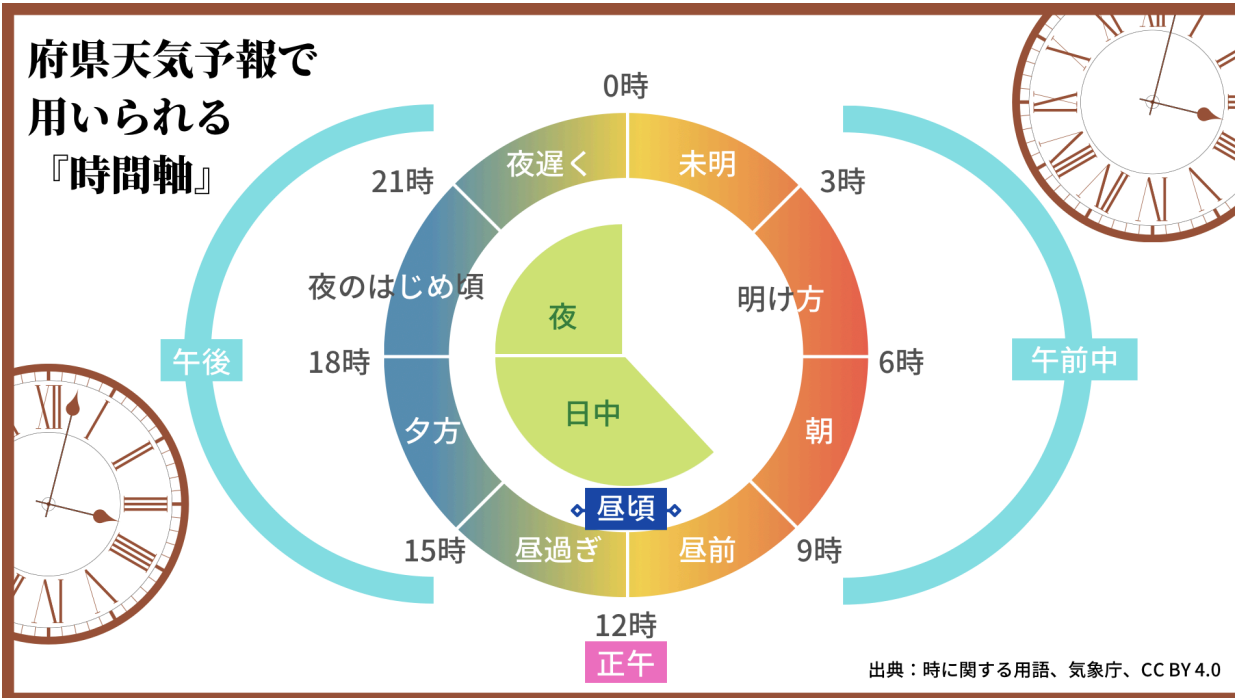
集団の中にいると、つい他人と同じ行動をとってしまう心理。避難が遅れる原因に。
「近所の人でも避難していないから、大丈夫でしょ？」

感情バイアス

心地よいことを信じたがり、不快な情報や精神的苦痛を与えるような厳しい事実を受け入れたがらない心理状態。防災がまさにこの状態に該当。

その判断 Yes or No

府県天気予報で 用いられる 『時間軸』



情報発信の成果

防災情報のうち、日本全国ダムマップは、10万インプレッションという高い関心度を得ることができました。



最後に...

今後も災害が起きるたびに、可視化していきます。よりよりサービスになっていくように、性能評価アンケートにお答えいただけますと幸いです。

齋藤 仁志.